

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成24年度第1回会議
開催日時	平成24年6月29日（金曜日）午前10時から正午
開催場所	保谷庁舎 東分庁舎 地下会議室
出席者	委員：鈴木委員、石井委員、冨々良委員、近辻委員、都築委員、並木委員、保坂委員、山下委員 事務局：吉田係長、亀田文化財保護専門員
議題	1報告事項 (1) 24年度の文化財保護行政の取り組みについて (2) 埋蔵文化財調査について (3) 西武鉄道100周年アニバーサリーイベントへの協力について (4) 清水建設社宅地内集会場（古民家）について (5) その他 2西東京市の文化財保護について（提言作成に向けて） フリーディスカッション 3その他 次回会議日程について
会議資料の名称	資料1 「田無市における文化財保護行政に関する答申」（平成12年12月5日 田無市文化財保護審議会）に関する現状と評価について 資料2 文化財保護審議会における提言に係わる抽出意見 当日配布資料 資料3 24年度の文化財保護行政の取り組みについて 資料4 埋蔵文化財調査一覧（平成24年4月2日～平成24年6月29日） 資料5 ミニ写真展「保谷に鉄道がやってきた！」実施記録 資料6 清水建設社宅地内集会場（古民家）について ・西東京市、練馬区の景観構造図（都築委員より）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局報告（人事異動に伴い社会教育係長挨拶） ・前回会議録の確認、訂正、決定。 ・配布資料の確認。 	

議事1 報告事項

(1) 平成24年度の文化財保護行政の取り組みについて

事務局：

資料3参照。

昨年度より継続している文化財の把握調査を中心に行う。それ以外は指定文化財、埋蔵文化財の保護と整理。市民や庁舎内の他部局に対し、郷土資料室の積極的な活用を進める。今年度は特に他の部局や機関と連携の重視を考えており、現在までに西武鉄道、公民館と連携した事業を実施。

検討事項は昨年同様で、地域、団体等との連携。郷土資料室の充実。下野谷遺跡の指定。登録文化財制度の検討。

なお、今年度中に西東京市の文化財保護についての指針作成をお願いしたい。

(2) 埋蔵文化財調査について

○事務局：

資料4参照。

表以外にも下野谷遺跡の範囲内で協議中の物件有。下野谷遺跡の西側集落域での住宅の建替えが続いている。

(3) 西武鉄道100周年アニバーサリーイベントへの協力について

事務局：

資料5参照。

西武鉄道からの協力依頼から実施まで2週間もなかったため、簡単なミニ写真展を開催した。開催にあたっては市民団体と協力のうえ行った。5,000人の来場者があり、今年度にもう一度企画している。次回は社会教育課だけでなく産業振興課等とも連携をして行っていきたい。

(4) 清水建設社宅地内集会所（古民家）について

事務局：

資料6参照。

清水建設の意向から解体はやむを得ない。この件に関しては、市民より陳情、要望書が出され、社会教育課としては市民と清水建設との橋渡しとなるなど、できうる範囲での協力をする事となったため、解体後の部材の活用を念頭に解体方法などを調整した。

また、解体途中で社会教育課の委託で専門家による実地検分調査を行った。その結果、桁・梁・小屋材は創建当時の材料である可能性が高いが、それ以外は昭和44年改築後のものであることがわかった。したがって、市民団体の要望で、部材の一部を用いて民族学博物館に展示してあった民家のミニチュアを作成し展示することになった。この展示も含め、平成25年度の文化財ウィークにあわせて、民族博物館に関する普及事業を計画する。

(5) その他

事務局：

田無神社の東日本大震災における被災状況について。

本殿と基壇の石組みにゆがみが生じたため、都の補助事業として修復中。

これに伴い、覆殿の床をはがしたところ、礎石には寛永4年との記載があり、本殿自体の建築年代の安政5年とは開きがあることがわかった。今後、要調査。修復は秋口までの予定。

○鈴木会長：

事務局から報告があったが、質問等があればお願いしたい。

山下委員：

西武鉄道のイベントはどこで行われたのか。

事務局：

保谷駅の旧車両基地で行った。

近辻委員：

資料3に関して4点程質問。

1. 旧下田家名主役宅の修理について。
数年前に修復を行ったはずだが、また新たに必要が生じたのか。
2. 民俗文化財調査の内容について
3. 文化財めぐりの内容について
4. 公民館事業での講師派遣について

事務局：

1. 東日本大震災で、瓦が落下し、その修復を行っている。
2. 聞き取り調査を予定しているが、その内容と時期、対象者、方法など未定。ただし、今年度から少しずつでも進められるよう予算だてした。
3. 「西東京市の石仏をめぐる」という写真展と合わせを文化財ウィーク事業とする予定。
4. 今のところ2件。1件は例年行っている小学生対象の縄文土器づくりだが、今年度は、縄文の森の秋まつりにも参加してもらう。もう1件は、シニア向けの田無カレッジ内での文化財講座。

石井委員：

清水建設社宅地内の古民家だが、解体後の置き置きした部材はどのように保管しているのか。

事務局：

「民族学博物館」に展示されていた古民家の20分の1のミニチュアと、「博物館」の全体がわかるようなジオラマを作成できるように各部材の一部を、市民の方の庭に置いてもらっている。

鈴木会長：

実地検分は、文化財保存協会の人がきたのか。

事務局：

「文化財保存計画協会」の方をお願いした。

石井委員：

大阪の民博とは連絡はとっているのか。

○事務局：

「民族学博物館」に関係する事業を行う時には連絡を入れ、冊子なども郵送している。

都築委員：

清水建設集会所解体後はどうなるのか。

事務局：

今のところ未定と聞いている。

都築委員：

解体の目的は何か。

事務局：

社宅の撤去。清水建設の社宅で唯一最後の社宅と聞いている。

都築委員：

売却前に敷地の一部でも市に寄贈してもらおう行政として働きかけてほしい。

山下委員：

埋蔵文化財調査で、下野谷遺跡出土の土器・石器約40点は現在どのようにして管理しているのか。

事務局：

警察、東京都へ届け出の後、市で保管している。

議事2 西東京市の文化財保護について（提言作成に向けて）

並木委員：

民俗文化財調査は行っているのか。

事務局：

田無、保谷市時代、市史編纂などに関連し、民俗調査を行い報告書も出されている。しかし、画像、映像的な資料などが上手く記録されていない。

並木委員：

民俗文化財の調査で大切なものの1つは祭り。特に最近は映像による記録法を用いる

ことが多い。調査にはお金がかかるが、専門家が行わないと難しい。また、祭りは時期が決まっているのでその点も考えて計画を立てた方がよい。

事務局：

予算も関係してくるので、今後、先生方にもご相談しながら進めたい。

近辻委員：

民俗調査については、田無の向台地区が比較的古いものが残っている。高齢者が居なくなるので早急に行った方がよい。お祭りについては、柳沢地区で「柳沢文化財保存会」が、明治20年の半ば頃から天王祭のお祭りを行っている。ご神体は明治初年に田無神社に合祀されている。今年は7月の7、8日に予定。

石井委員：

実際に行動にうつせるような予算が付かなくては提言作成の意義も薄れる。市として一定の方向性を示して貰わないと動きようがない。

尋々良委員：

「田無市における文化財行政における答申」を読んだが、課題は何かが見えない。ここで答申をしても、また形だけになってしまうのでは仕方なく、具体的にして行かないと意味がない。

並木委員：

たとえば、祭りなどは年中行事であるため、今年撮影できないと次は来年になってしまう。きちんと計画をたてるべきだ。それにしても予算がないと動けないしまとめる意味もなくなる。

鈴木会長：

どれだけ予算措置ができるのかが大前提である。市側が頑張ってくれる事を前提にやっていくしかない。前の提言が残念ながら実現しなかったというような反省も含めて行うしかない。

都築委員：

調査は年中行事という意見もあるが、もう少し具体的にできるところから少しずつやっていった方がよい。焦点を絞って具体的に計画をたてたうえで、積み上げていけばよい。出来るところから行っていった方がよい。年中行事もなくなっているので緊急性を要する。

並木委員：

特に保存を考えると撮影もプロでなければならぬし、細かな専門分野もある。予算も必要。

近辻委員：

西東京市では文化振興課が主管課となり「西東京市文化芸術振興計画」を作り、今年

から具体的な施策を行っている。タイムスケジュールなどを検討する委員会をつくり、8月に第1回の会議を開催する。この計画の中には民俗文化財の保存の項目もある。

○事務局：

文化芸術振興計画がようやく西東京市でもでき、その中には当然、文化財に関する部分が入っている。そこで文化財関係の学識経験者の推薦を主管課から相談され、近辻委員を推薦した。今後は情報を提供し合い共有していく。

社会教育課でも、今回提言を出して頂いた後に具体的な実施計画（アクティブプラン）となる「保存・活用計画」の作成を次の段階のステップとして考えている。また、その前には平成25年度に第2次西東京市総合計画の策定があり、その中に文化財保護を組み込むためにも提言を頂きたい。このような形をとらないと予算も付かない。あわせ、個別の調査等をもう少し計画的に行うようにして、少しでも予算を積み上げるようにしたい。

各課がそれぞれに作成している計画を一体化させ、地域づくりの中に文化財も組み込んでいけるような庁内を横断するような連携が必要。

予算の不足分は、NPOの活用なども国は進めているのでそれらも視野にいれたい。

石井委員：

先ほどから国からと言っているが、まずは西東京市としての方向性が無い。例えば民俗資料など所有する文化財の把握が必要。この中には早稲田大学が保管している下野谷遺跡の遺物も含まれる。現地で確認することも必要。他市の状況の視察も有効。まずは市が行うべきことを確認すべき。

○鈴木会長：

フリートキングなので色々な角度から発言をしてもらって構わないが、方向性としては提言としたい。充分時間を使わなくてはいけないのだが、総合計画策定の時期もあるので、あと1回の会議ぐらいで纏めなくてはならない。

まず土台になるのが田無市で出した答申である。多岐にわたった優れた提言だが、実際これが形になっていない点が前回確認したことである。基本的には同じ提言を繰り返す事の中から実現を目指していきたい。

最大の問題は人材で、専任の文化財担当、学芸員資格者が継続的に実務に関わらなければ進まない。場所と人が第一に必要であり、その上で予算をつけ、様々な調査や市民への情報提供等のサービスをしていく。人がいなくては調査はできないし、調査成果を公開しなければ税金を使った意味がない。そこで、市民への公開の場が連動していくわけで、最終的には前回と同じように博物館構想を目標にしたい。ただ、最初からそのことを目標にすると予算がなくて無理であるという事になり、前回の提言同様実際には実現しないこともあるので、そこまでのタイムスケジュールを出すなど考えたらどうか。

○石井委員：

もっと委員を使ってどんどん仕事に入ることも大事。まず何からやるのかのスタートラインを見つけること。

○事務局：

民俗文化財の調査、建造物の調査を少しずつではあるが、進めている。これは登録文化財の導入にむけた文化財の把握の意味もある。

保坂委員：

資料について、着実に調査した結果を1点ずつ目録に採るなりして積み上げていく。それによってこれまでの進捗も明らかにし、市民に学習、研究の材料としてもらうものも提供できる。その様な方向は、基本的には賛成である。それが無ければ誰も説得できない事だと思う。ただ、どこの市町村でもその様な取り組みをしようとしているが、例えば人口20万規模の自治体だと学芸員が3名から5名いる。以前住んでいた自治体は人口10万規模であったが、博物館に3名、文化財係に2名いた。それ位の職員や専門的なパワーがないとなかなか手が回らない。西東京市では文化財行政的な様々なコントロール、差配も含め、従事する人数に限られ、専門的なパワーに問題があるように思う。その改善が急務であり、それによって一歩ずつでも進んで行くように思う。

山下委員：

以前、武蔵野大学の武蔵野文学館と提携の話があったがもう一步進めて、ずっと問題になっている博物館の話が出来ないだろうか。

○鈴木会長：

地域博物館を実現させていくには、説得力をつけて行かなくてはならない。例えば下野谷が国史跡になるような機会があれば、下野谷遺跡の近くに地域の博物館を計画するような事を提言の中に盛り込んでいく事は可能である。おそらく博物館が市の中で非常に大きな役割を持つ。下野谷遺跡と合体することで東京都や国のレベルの博物館に繋げていくことができる。提言も最終的に博物館建設の方向に持っていけるよう説得力をつけていきたい。

保坂委員：

今の発言に賛成。市では公共施設における基本方針や基本計画があり、昨年かためている。そこには公民館や図書館、こもれびホールなどの施設について、何年にどのような目標、目的の基に作ったのか。耐用年数、今の稼働率はどの位なのかなど全てデータが出ている。その中には、そろそろ耐用年数がきて全てこのまま使用するかが疑問なものもある。そういった全体の施設計画に絡めながら、場合によっては複合的な形でもいいので、例えば下野谷遺跡を中心にした国から補助金の採れるような事業とタイアップさせたりしていく。田無の中央図書館も何度か行ったが本が溢れている様にも見えたし、新しい施設にも見えない。もし建替えなどの計画がでてくるならば、地域博物館の機能を複合的にもたせる。

○石井委員：

以前は年に一度は施設見学があり、他の市へ行き勉強をした。合併してから一度もない。ぜひ一度、市のマイクロバスを使用して周辺を見てくるのも必要である。

○鈴木会長：

西東京市の文化財施設は周辺の中では貧弱である。少なくとも近隣市には遜色無いレ

ベルに上げるよう努力してほしい。

○石井委員：

西東京市には大学はいくつあるのか。

○事務局：

1校だけである。

○都築委員：

ここで出す提言というのは理想も大事だが、実現できるような方向で出した方がよい。連携との話があったが、下野谷遺跡が話題に上がっているが、まちづくりという事での観点で練馬区と合わせて整理してみた（都築委員からの資料「西東京市、練馬区の景観構造図」参照）。西東京市との市境には富士見池があり、すぐ隣に下野谷遺跡がある。遺跡範囲はもちろん繋がっている。一帯の整備という点では、練馬区の方は武蔵関公園を重点的な景観としてあげている。西東京市の方では水辺の散策路を整備している。しかし、北岸の早稲田大学のグランド側は緑が多く残るが、南岸の遺跡公園側は、公園などに部分的に緑があるだけである。ここをもう少し面的な川沿いの空間として、遺跡も含め景観整備する方向にもっていけば、町づくりと一体で、多分、国の補助金が採れるのではないか。そのようなやり方で下野谷遺跡の活用、整備も含めて指定に向けて具体的に景観計画をうまくはめ込んでいくようにした方がよい。

○石井委員：

石神井川を3日間位に分けて歩くのも良い。非常に勉強になる。

○都築委員：

公園の計画の中で、歴史景観ということで西東京市の方でもHPでうたっているのも、上手く連携をとって具体的な計画の中に入れて行くと良い。連携は非常に重要。国からの補助が無いとなかなか厳しい。公園課など他課との連携も密にし、より話を具体的にしてほしい。

○鈴木会長：

2種の問題があげられている。

登録文化財の制度の導入や、旧下田家名主役宅の問題などは、審議会で少しずつ行って行けば良い。野分染神社についても市指定の方向で再度審議に入っても良いのではないかと考える。このように、提言の作成と合わせ、審議会で順次進めていける案件もある。

一方、まちづくりを一体化して行って行く件だが、それぞれの自治体でのやり方があり、良くやっている所にお手本を見せてもらいたい。近隣では練馬区は良い。他市、他区などで良い情報があれば披露してほしい。

夢々良委員：

予算はどのようにしてくるのか。

事務局：

事業の優先度により予算は割り振られる。したがって、課で一定の方向性のもと、具体的な必要性をアピールすることが必要。

杢々良委員：

それでは提言で根拠を執拗なほどアピールすることが必要。

石井委員：

とにかく課、市の方向性がみえないことが最大の問題。下野谷遺跡の史跡指定に関しても、市が動くことを都も国も待っている。

○都築委員：

柳沢から都道ができるが下野谷遺跡からの遊歩道は、遺跡を含めた景観計画などではどのようになっているのか。以前に話があったと思うが。

○事務局：

基本的には水と緑と遺跡のエリアになる。資料にある都が計画している都市計画公園の青色の点々部分が石神井川にあたる。練馬区境にあたるのが早稲田のグランドで、その対岸に下野谷遺跡がある。東伏見公園の千駄山という緑地もある。このあたりを合わせた形で、水と遺跡と緑のエリアとして計画している。

ただし、具体例として遺跡を含めた計画としては聞こえてこない。

○鈴木会長：

東伏見公園の建設は都の事業なので勝手に改修は無理だが、市が下野谷遺跡を組み込ませ計画を立てるのが良い。

○石井委員：

下野谷遺跡は市が10年計画位で、少しずつ買うという方向でいかななくてはだめだ。公園の両隣の空き地2つは購入しなければいけない。千葉県の市川市などは姥山貝塚を10年計画で購入している。西東京市も工夫しなければならない。

○近辻委員：

西東京市文化財台帳は2001年位に作成し直しているようで、1つの文化財に対して1ページになっておりキチンとしている。文化財台帳は事務局の方で作られていたみたいだが、その経緯はどのようなになっているのか。

○事務局：

出来上がっていたので経緯は分からないが、合併時に台帳整理されたのではないかと思う。

○石井委員：

古い部落・集落が残っている場所で町内会は幾つぐらい残っているか。

- 近辻委員：
町内会があるのは田無では2つあるが消滅状態である。
- 石井委員：
田無神社の氏子はどの位いるのか。
- 近辻委員：
100とか200とかだと思う。
- 都築委員：
保谷囃子は人手不足で笙などを演じる人がいないので遠方からきてもらっているようである。
- 近辻委員：
田無囃子も新しい。成立は明治の終わりころで保谷囃子はもっと後である。東村山、小平は部落ごとにありケタが違う。
- 鈴木会長：
個別の貴重な情報が出ているが、実際に調査する機会があれば対象にしていきたい。やはり纏めていくには、人、予算が無いと進まない。事務局にて優先順位をつけ次回の原案として出してもらいたい。
- 事務局：
確認だが「人、場所、体制、予算」ともう少し具体的に進める進め方を提言に盛り込んだ方が良いとの意見か。
- 鈴木会長：
最終ページの「文化財保存・活用計画」の策定についての部分が今後の重要な点になってくる。
- 保坂委員：
予算についてだが、計画が具体的である方がよいとの事なので、下野谷遺跡での具体的プランを示した方がよい。その為には文化振興課、公園緑地課、都市計画課等の職員との連携が必要。その際、文化財の担当課に専任を置くことにより交渉力が違ってくるし、強く要請することが必要である。
- 事務局：
次回までに事務局で、今までの内容を基に各委員の意見、現状を踏まえ案を作成していくかたちになる。
その他、調査企画事業なども行っていくので、今後は文審の時のみだけでなく現状を密に連絡を入れるようにする。

議事3 その他

(1) 次回会議日程について

○事務局：

次回の会議は10月26日（金曜日）午前10時予定。

○鈴木会長：

以上で本日の会議を終了する。